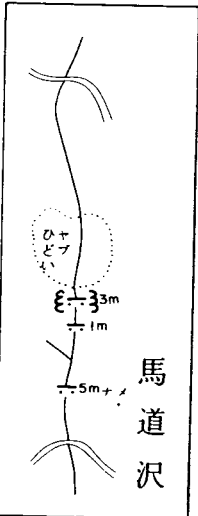


ナメが出てきたあたりで終わりとなつた。

小滝をまじえたナメを遡ると、水も少なくなってくる。最後の華をかざるように一〇は二段の滝があった。

水もなくなり、尾根に向けて上がつてゆくと、カモシカに出合った。しばらく一緒に尾



根に向けて上がる。尾根にて現在地を確認して、草葎沢の下降点へと歩く。

〔タイム〕 井戸沢出合(九:三五) ↓

終了(一一:五〇)

抜けるとすぐに道路へ出た。

「ここらあたりの沢で一番苦労することは？」と聞かれたなら、伐採地のヤブを一番にあげることだろう。そんな感じを強くもつ沢である。

〔記〕

〔タイム〕 馬道沢出合(一二:四〇)

↓終了(一三:〇〇)

馬道沢

一九八四年八月四日

林道そのの何もない沢とわかつていても、地域研究を進めてくるうちに入らざるをえなくなってくる沢のひとつがこの馬道沢である。水はかすかに流れている程度。五匹のナメ

滝がわずかに華をそえているだけの沢である。

小滝二つを越えてゆくと、沢は湿地に入り、その先は伐採地となってヤブがひどくなる。苦勞してここを

